（別紙５）

公表　事業所における自己評価結果

事業所名	児童発達支援・放課後等デイサービス　くるむ

公表日　2026年3月27日

		チェック項目	はい	どちらでもない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6	2		活動がしやすいように整理整頓に気を付けている。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	5	3		ほぼマンツーマン体制で運営している。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	2	2	4	階段があることでバリアフリーとは言えない。	危険箇所には工夫をして安全面に気を付けていく。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	8			定期的に空気の入れ替えや汚れを見つけると清掃など気を付けている。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか 。	8			個別対応できるように区切られた空間の準備はしてある。	
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	6	2		している。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8			個人懇談や家庭訪問を実施している。	保護者と積極的に話をしていく。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8			職員間で連絡を取り合える環境をつくっている。	整理整頓が気配りを忘れず話しやすい環境をつくっていく。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。			8	指定のときに、第三者をおかないと記載している。	今後も同様。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	8			法律で定められた研修を最優先に受けるようにしている。	関西発達臨床研究所のバックアップ事業所として学びの機会を設けていきたい。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか 。	8			している。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	8			している。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	7	1		児童発達支援管理責任者の資格をもっているスタッフも多く、ともに意見交換して二重チェックで作成している。	多くのスタッフに話を関き取りながら作り上げていく体制の整備を検討する。
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	8			行っている。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察などを含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	7	1		さんぽょモデルでアセスメントをとれるように研修会を行いたい。	指定のアセスメント方法を決めるのであれば、皆が同じようにできるように研修をしていきたい。
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容を踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	8			まさに、今の課題を見つけられるように意見交換を密に行うようにしている。	それぞれのカテゴリーに何が欠けるのかをスタッフが共通理解できるようにしていく。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	8			チームというよりも話の中でどんどんアイデアを出している。	子どもたちが興味を引くような教材教具を研究していきたい。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	8			そもそも同じことを繰り返すことが特性であり、繰り返す中での学びを大切に思っているので…	固定化を重く思えない。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	8			行っている。	状況に応じて柔軟に対応できるようにしていく。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っている。	6	2		保護者や学校からの情報を皆で共有している。	落ち着いた環境で打ち合わせができるような環境を提供できるようにしたい。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6	2		緊急性のあるものを優先順位にして共有している。	その日のうちにしなければならないこと、次の日でもいいことの棒み分けを行いながら情報共有をしていきたい。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	8			つなげている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	8			行っている。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	8			行っている。	適材適所で参画者を決めていきたい。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	8			行っている。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	7	1		併行利用などは、保育の利用者がそうであるので所属園との連携をしっかりとっている。移行については、対象園児がいるときは行っている。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	7	1		対象園児のいるときは行っている。	今年度は３人。
	28	（28～30は、センターのみ回答） 地域の他の児童発達支援センター等障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。					
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。					
	30	（自立支援）協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。					
	31	（31は、事業所のみ回答） 他地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか 。	6	2		続けている。	
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。			8	必要を感じていない。	所属校で十分だと考えているために事業所のとまくらい好きなことをたっぷりさせてあげたいと考えている。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	8			なるべく密にとれるようにと考えているが、受入先に相違はあるだろうと思う。	個人懇談の頻度を上げていきたい。
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	8			今年度より企画・開催している。	継続して保護者のニーズに合わせたものを企画していきたい。
保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6	2		入所時に伝えるようにしているが途中で説明することは変更以外ではない。	HUGアプリ上で公開している。
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか 。	2	6		保護者の意向を確認することとどまっている。	本人の気持ちを尊重できるようにしていきたい。
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	8			説明まできっちりは行えていないが、質問があれば丁寧に答えている。	質問をしやすい環境設定を行いたい。
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	8			行っている。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。			8	あまり必要性を感じていないが、ニーズがあれば企画したいと思っている。	きょうだい児に対する支援を考えていきたい。事業所には、シブリングサポーターの経験者が在籍している。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	8			対応手順が確立されているので迅速に対応できている。	迅速に行えるように皆で方法・手順を理解しておきたい。
	41	定期的に通信等を発行することや、HP やSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	4	4		個人情報の関係であまり頻繁には行ってはいない。今年は少なかったように感じている。	再度個人情報について関き取り、療育中の取り組みなどを発信していきたい。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	8			留意している。	HUGアプリ上で公開している。アプリの導入はかなり大きい。
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	8			している。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	2	2	4	あまり熱心にやってはいない。	自治会に入会し行事に参加している。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	7	1		法令で決められている訓練等は職業に行っているが、全利用者が確行っている同時ではない。	HUGアプリ で行っていく。情報を公開していく。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	8			行っている。	積極的に周知していきたい。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	8			している。	保護者との連携をとっていく。
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	8			している。	保護者と連携をとっていく。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	8			行っている。	情報を公開していく。
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、事族等へ周知しているか 。	6	2		周知の頻度が低いように感じている。	情報を公開していく。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	8			している。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	8			している。	皆で声を掛け合うようにしていく。
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明して了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	8			記載している。	研修を確実に行っていく。